



「技術革新」との理解が違いで、過去の成功を既得権益を守ろうとする内部の根強い抵抗が、はねのけるイノベーションの本質「破壊的イノベーション」が技術のみならず社会制度、教育、経済、産業構造全体を変革、新たなグローバル化時代における人類共通の課題克服を担っていく。イノ

クローズアップ

政策大學院大學教授
內閣特別顧問

黒川
清氏に聞く

日本復活の鍵「破壊的イノベーション」

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit, a light-colored striped shirt, and a dark tie. He is smiling and looking slightly to his right. To the right of the portrait is a vertical column of Japanese text.

ソーダーは壮大なビジョンと責任を
ソーダーは、たつた緊迫化する食糧争奪問題に、外にも多くの国が原子力の大学院生が十年を生むだろう。しかし、おり、日本には、世界貢献のための好機である。これが、世界の低炭素社会へのさまざまな政策、クリーンエネルギーと同時に絶好のビジネスチャンスである。
ソーダーは、たつた緊迫化する食糧争奪問題に、外にも多くの国が原子力の大学院生が十年を生むだろう。しかし、おり、日本には、世界貢献のための好機である。これが、世界の低炭素社会へのさまざまな政策、クリーンエネルギーと同時に絶好のビジネスチャンスである。
ソーダーは、たつた緊迫化する食糧争奪問題に、外にも多くの国が原子力の大学院生が十年を生むだろう。しかし、おり、日本には、世界貢献のための好機である。これが、世界の低炭素社会へのさまざまな政策、クリーンエネルギーと同時に絶好のビジネスチャンスである。

なれば、ハサミ二三枚を本格化しないのが君に
自ら乗り込み冒頭一體となつて不思議でならない。ひ
なつて原子力プラント商談を積極果敢に進めてお
り、それに独英も同意、米国も内々認めてい
いわれる。「日本はなぜ来
ない」と聞くと、「米
国が承認してくれれば
「」といふ状況のようだ。
技術の活用による温暖化
防止対策にも端的に現れ
ている。省エネ技術は日
本が世界トップレベルだ
なつて原爆投下の立場
の盛田昭夫や本田技研の
本田宗一郎のように、自
らの技術・製品で世界制
覇、貢献を意図し、独自
の哲学、ビジョンと情熱
を持つて行動する稀有壯
大な創業経営者がいなく
ない」といふ状況のようだ。
こうした図式は省エネ
なり、経営者マインドが
矮小化している。

世界から見た日本は
今、実に頼りない国でし
かない。自分が何も決
方とはいえ「リーダー」
といわれる責任ある立場
の人たちはもっとと壮大な
ビジョンと世界での責任
を持つことが必要だ。地
球の状況が様変わりする
中、現世代は将来世代に
大きな責任があるうえ、
この知識社会に住んでい
るべきか「知らなかつた」
ではなくないのである。

キュリティーを同時解決が、日本のCO₂排出量は世界の約五%。しかしあアジアの世界経済が拡大する中、二十年後には日本分は一%程度となる。ア他の世界経済が拡大する中で日本だけが横ばい、内向きのまま魅力がない。すべては過去の成功体験で「破壊的イノベーション」が進まないことに起因している。

私は先日、中東出張でアタビに立ち寄った。敢に途上国向けビジネスについてもある。

企業は温暖化防止に貢献します。国内ですることは他

い。低炭素社会へ向けてい。の気概を示してほしい。

半面、中国、インドなどはどんどん比率が増大する。もし技術が抜きん出る。アインシュタインのE=mc²から百年、ここに

なれば、ハサミ二三枚を本格化しないのが君に
自ら乗り込み冒頭一體となつて不思議でならない。ひ
なつて原子力プラント商談を積極果敢に進めてお
り、それに独英も同意、米国も内々認めてい
いわれる。「日本はなぜ来
ない」と聞くと、「米
国が承認してくれれば
「」といふ状況のようだ。
技術の活用による温暖化
防止対策にも端的に現れ
ている。省エネ技術は日
本が世界トップレベルだ
なつて原爆投下の立場
の盛田昭夫や本田技研の
本田宗一郎のように、自
らの技術・製品で世界制
覇、貢献を意図し、独自
の哲学、ビジョンと情熱
を持つて行動する稀有壯
大な創業経営者がいなく
ない」といふ状況のようだ。
こうした図式は省エネ
なり、経営者マインドが
矮小化している。

世界から見た日本は
今、実に頼りない国でし
かない。自分が何も決
方とはいえ「リーダー」
といわれる責任ある立場
の人たちはもっとと壮大な
ビジョンと世界での責任
を持つことが必要だ。地
球の状況が様変わりする
中、現世代は将来世代に
大きな責任があるうえ、
この知識社会に住んでい
て温暖化問題でも何をす
べきか「知らなかつた」
ではなく、何をすべきか
ではまらないのだから。
(原子力ジャーナリスト
中 英昌)